

中学生の喫煙に関する行動・態度・環境と
セルフエスティームとの関連

村松常司¹⁾, 鎌田美千代²⁾, 佐藤和子³⁾, 村松園江⁴⁾, 千足耕一⁵⁾,
川畑徹朗⁶⁾, 片岡繁雄⁷⁾

The Relationship between Smoking Behavior, Attitude and
Environment, and Self-Esteem among Junior High School Students

Tsuneji MURAMATSU¹⁾, Michiyo KAMADA²⁾, Kazuko SATO³⁾,
Sonoe MURAMATSU⁴⁾, Kouichi CHIASHI⁵⁾, Tetsuro KAWABATA⁶⁾,
and Shigeo KATAOKA⁷⁾

中学生の喫煙に関する行動・態度・環境と セルフエスティームとの関連

村松常司¹⁾, 鎌田美千代²⁾, 佐藤和子³⁾, 村松園江⁴⁾, 千足耕一⁵⁾,
川畑徹朗⁶⁾, 片岡繁雄⁷⁾

The Relationship between Smoking Behavior, Attitude and Environment, and Self-Esteem among Junior High School Students

Tsuneji MURAMATSU¹⁾, Michiyo KAMADA²⁾, Kazuko SATO³⁾,
Sonoe MURAMATSU⁴⁾, Kouichi CHIASHI⁵⁾, Tetsuro KAWABATA⁶⁾,
and Shigeo KATAOKA⁷⁾

Abstract

We have investigated the relationship between smoking behavior, attitude and environment, and self-esteem among junior high school students using a questionnaire. The contents of self-esteem were 6 areas, i.e. general, cognitive, social, physical, body and family. We could find positive relationships between smoking behavior, attitude and environment, and self-esteem. The self-esteem score of the students whose smoking behavior, attitude and environment were all desirable, were higher than that of the other students among the both of sexes. Among the boys we could find significant relationships between 4 areas (general, social, family and body) of the self-esteem and their smoking behavior "putting pressure on behavior which encourage no-smoking on the reason that smoking is no good for your health." Among the girls we also noticed the significant relationships between all 6 areas of the self-esteem and their attitude that the friends offer to smoke. Accordingly, for junior high school stu-

- 1) 愛知教育大学保健体育講座
〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1
- 2) 愛知教育大学附属幼稚園
〒461-0047 名古屋市中区大幸南1-1-24
- 3) 愛知教育大学養護教育講座
〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1
- 4) 東京水産大学海洋生産学科
〒108-8477 東京都港区港南4-5-7
- 5) 十文字学園女子短期大学
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
- 6) 神戸大学発達科学部
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
- 7) 北海道教育大学旭川校生活健康学
〒070-0825 旭川市北門町9

- 1) Aichi University of Education, Department of Health and Physical Education
Hirosawa 1, Igaya-cho, Kariya, Aichi(448-8542)
- 2) Aichi University of Education, Kindergarten
Daiko Minami 1-1-24, Higashi-ku, Nagoya, Aichi(461-0047)
- 3) Aichi University of Education, Department of School Health
Hirosawa 1, Igaya-cho, Kariya, Aichi(448-8542)
- 4) Tokyo University of Fisheries, Department of Marine Science and Technology
Konan 4-5-7, Minato-ku, Tokyo(108-8477)
- 5) Jumonji College, Department of General Education
Sugasawa 2-1-28, Niiza, Saitama(352-8510)
- 6) Kobe University, Faculty of Human Development
Tsurukabuto 3-11, Nada-ku, Kobe, Hyogo(657-8501)
- 7) Hokkaido University of Education, Asahikawa Campus,
Department of Long Life Health Science
Kitamon-cho 9, Asahikawa, Hokkaido(070-0825)

dents not to smoke in a future, no-smoking environment especially in family should be extend, at the same time their self-esteem level was necessary to raise up.

キーワード：中学生、喫煙行動、喫煙態度、喫煙環境、セルフエスティーム

Key Words : Junior High School Students, Smoking Behavior, Smoking Attitude, Smoking Environment, Self-Esteem

I. はじめに

わが国では未成年者喫煙禁止法により未成年者の喫煙は禁止されているが、現実には多くの青少年が喫煙している^{21) 18) 22)}。喫煙習慣は容易に形成され、一度身につくと断ち難いことや喫煙開始年齢が早いほど健康への影響が大きいこと¹⁴⁾から、青少年に対してタバコを吸い始めないように働きかけることは極めて重要である。

セルフエスティームは「健全な自尊心」⁹⁾を意味しており、人間のとる行動はこのセルフエスティームの影響を強く受けている^{23) 6)}。一般的にセルフエスティームは高い方が好ましく、学校教育の場面では、低いセルフエスティームの発現とみられる行動、例えば、攻撃性、反社会行動、抑うつ、学業不振、非社会行動など⁸⁾が数多く認められている。

わが国の青少年の喫煙行動とセルフエスティームとの関連について、川畑ら^{10) 11)}は、小・中学生の喫煙未経験者は経験者に比べて、「学習」と「全般」の領域におけるセルフエスティームが高いが、「運動」の領域に関しては喫煙経験者の方が喫煙未経験者よりも高い傾向にあったと報告している。また、ライフスキルと生活習慣の関係を追跡した研究¹²⁾では、健康的な生活習慣を実践している青少年のセルフエスティームは実践していない青少年よりも全般的に高いと報告している。植田²⁴⁾は、高校生を対象にしてセルフエ

スティームと喫煙・飲酒・薬物の使用についての調査を行い、男子においてセルフエスティームと喫煙に有意な関連を認め、非喫煙者、試喫煙者、喫煙者の順にセルフエスティームが低くなる傾向を報告している。

村松ら²⁵⁾は、喫煙経験のない小学生は喫煙経験のある小学生より「学習」と「家族」の領域におけるセルフエスティームが高いことを報告している。さらに、小学生の喫煙行動・態度とセルフエスティームとの関連²⁶⁾を追究し、女子の「運動」の領域においては「喫煙する友人がいる」者のセルフエスティームが高く、他の尺度と逆転していることを報告しており、喫煙行動、習慣とセルフエスティームとの関連は強いと言える。

本研究は、青少年の喫煙防止に向けて中学生のセルフエスティームと喫煙に関する行動・態度・環境との関連を追究したので報告する。

II. 調査方法

1. 調査対象

調査対象は愛知県下の中学校2校に在学する1～3年生1234名である。対象者の性別、学年別の人数は表1に示すとおりである。

2. 調査時期

調査は平成11年4月～平成11年の6月にかけて各中学校において実施した。

3. 調査方法

表1. 対象者の学年別・性別人数

性別	1年生	2年生	3年生	合計
	N (%)	N (%)	N (%)	N (%)
男子	213(35.3)	172(28.5)	218(36.2)	603(100.0)
女子	226(35.8)	188(29.8)	217(34.4)	631(100.0)
合計	439(35.6)	360(29.2)	435(35.3)	1234(100.0)

調査は無記名自己記入法とし、クラス担任に調査票の配布、回収を依頼した。回答した内容についての秘密保持のために、記入後の調査票は同時に配布した封筒に入れさせ封をさせた。調査票を記入している間はクラス担任が机間巡視をしないようにした。

4. 調査内容

喫煙に関する行動・態度・環境の調査内容は以下の項目で調査した。

(1) 喫煙に関する行動

- 1) 喫煙経験（今までにたばこを一口でも吸ったことがあるかどうか）
- 2) 一ヶ月間の喫煙状況（この一ヶ月にたばこを吸ったかどうか）
- 3) 禁煙圧力行動①（身体に悪いからやめてほしいと言ったかどうか）
- 4) 禁煙圧力行動②（不快だからやめてほしいと言ったかどうか）
- 5) たばこ煙からの回避行動（たばこを吸う人が隣りにきたら場所を移動するかどうか）

(2) 喫煙に関する態度

- 1) 将来の喫煙意思（20歳の時にたばこを吸っているかどうか）
- 2) 喫煙者に対するイメージ（喫煙者をみて格好悪いと思うかどうか）
- 3) 受動喫煙に対する反応（受動喫煙の時に感じ悪いと思うかどうか）
- 4) 喫煙の勧誘に対する態度（友達からの喫煙の勧誘を断れるかどうか）

(3) 喫煙に関する環境

- 1) 父親の喫煙状況（喫煙する父親がいるかどうか）
- 2) 母親の喫煙状況（喫煙する母親がいるかどうか）
- 3) 兄弟の喫煙状況（喫煙する兄弟がいるかどうか）
- 4) 姉妹の喫煙状況（喫煙する姉妹がいるかどうか）
- 5) 親しい友達の喫煙状況（喫煙する親しい友人がいるかどうか）

(4) セルフエスティーム尺度

- 1) 「全般」、2) 「学習」、3) 「友人」、4) 「運動」、5) 「身体」、6) 「家族」

5. 分析方法

(1) 喫煙に関する行動と態度

喫煙に関する行動や態度を包括的に判断するために、1) 喫煙経験、2) 一ヶ月間の喫煙状況、3) 禁煙圧力行動①、4) 禁煙圧力行動②、5) たばこ煙からの回避行動、6) 将来の喫煙意思、7) 喫煙者に対するイメージ、8) 受動喫煙に対する反応、9) 喫煙の勧誘に対する態度、の9項目をとりあげ、以下に示す好ましい状況であれば1点、そうでなければ0点とし、合計を非喫煙得点とした(0~9点)。従って、得点が高いほど喫煙に関する行動・態度が好ましい状況と言える。

- 1) 喫煙経験：今までにたばこを一口も吸ったことがない。
- 2) 一ヶ月間の喫煙状況：この一ヶ月間喫煙をしていない。
- 3) 禁煙圧力行動①：身体に悪いからやめてと言ったことがある。
- 4) 禁煙圧力行動②：不快だからやめてと言ったことがある。
- 5) たばこ煙からの回避行動：たばこを吸っている人が隣りに来た時、他の場所へ移る。
- 6) 将来の喫煙意思：20歳の時喫煙していない。
- 7) 喫煙者に対するイメージ：喫煙者は格好悪いと思う。
- 8) 受動喫煙に対する反応：受動喫煙は感じ悪いと思う。
- 9) 喫煙の勧誘に対する態度：友達からの喫煙の勧誘を断れる。

(2) セルフエスティーム

セルフエスティームの測定には「全般」、「学習」、「友人」、「運動」、「身体」、「家族」の6尺度を用いた。各尺度の概要については、先の村松ら^{21) 22)}の報告に示した。

1) 「全般」の尺度

「全般」の測定にはRosenberg²³⁾のセルフエスティーム尺度日本語版10項目²⁴⁾を使用した。採点は4点のLikert型尺度として行い、最もセルフエスティームが高い場合は40点、最も低い場合10点となる。

2) 「学習」、「友人」、「運動」の尺度

「学習」, 「友人」, 「運動」の測定には Harter²⁾の認知されたコンピテンス (自己有能感) 測定尺度の日本語版21項目²³⁾を用いた。回答形式は4段階評定で行い, コンピテンスを最も高く認知している反応の回答を4点, 最も低く認知している反応の回答を1点とし, 「学習」, 「友人」, 「運動」の尺度ごとに合計得点 (7~28点) を求めた。

3) 「身体」と「家族」の尺度

「身体」と「家族」の測定にはPopeの尺度法の日本語版20項目²⁴⁾を用いた。採点は3点のLikert型尺度として行い, それぞれ最も高く認知している反応の回答を3点, 最も低く認知している反応の回答を1点とし, 「身体」と「家族」の合計点 (10~30点) をそれぞれ求めた。

6. 比較方法

データ処理に当たってはSPSS for Windows

ver. 9を用いた。各質問項目の回答の割合の比較には χ^2 検定を, 2群間の平均値の差の検定にはt検定を, 多群間の平均値の差の検定には一元配置分散分析を行い, Tukey-bの検定 (有意水準は5%) を使用した。

Ⅲ. 調査結果

1. 喫煙に関する好ましい行動と態度の性別比較

(1) 喫煙に関する行動

表2に示すように, 喫煙に関する行動すべてに性差が認められ, いずれも女子の割合が高かった。「喫煙経験がない」は男子65.7%, 女子80.8%, 「この一ヶ月喫煙していない」は男子90.0%, 女子94.9%であった。また, 「身体に悪いからやめると言ったことがある」は男子33.5%, 女子50.1%であり, 「不快だからやめると言ったことがある」は男子20.2%, 女子30.6%であり, 「隣りに来ると場所を移る」は男子40.1%, 女子53.9%であった。

表2. 喫煙に関する好ましい行動・態度の性別比較

好ましい行動・態度		男子	女子	合計
		N (%)	N (%)	N (%)
行動	喫煙経験がない	396 (65.7)	510 (80.8) **	906 (73.4)
	1ヶ月間喫煙していない	543 (90.0)	599 (94.9) **	1142 (92.5)
	身体に悪いからやめると言った	202 (33.5)	316 (50.1) **	518 (42.0)
	不快だからやめると言った	122 (20.2)	193 (30.6) **	315 (25.5)
	隣りに来ると場所を移る	242 (40.1)	340 (53.9) **	582 (47.2)
態度	20歳の時喫煙していない	203 (33.7)	294 (46.6) **	497 (40.3)
	喫煙者は格好悪い	130 (21.6)	205 (32.5) **	335 (27.1)
	受動喫煙は感じ悪い	322 (53.4)	469 (74.3) **	791 (64.1)
	喫煙の勧めを断れる	378 (62.7)	420 (66.6)	798 (64.7)
対象者の人数		603 (100.0)	631 (100.0)	1234 (100.0)

検定: 性別に「喫煙に関する好ましい行動・態度」の割合を比較した。

** : $P < 0.01$, $df = 1$ (χ^2 検定)

らやめると言ったことがある」は男子20.2%, 女子30.6%であった。「たばこを吸っている人が隣りに来たとき他の場所へ移る」は男子40.1%, 女子53.9%であった。

(2) 喫煙に関する態度

表2に示すように, 「20歳の時喫煙していない」は男子33.7%, 女子46.6%であり, 「喫煙者は格好悪い」が男子21.6%, 女子32.5%であり, また, 「受動喫煙は感じ悪い」とする者は男子53.4%, 女子74.3%であり, いずれも女子の方が有意に高かった。「喫煙の勧めを断れる」は男子62.7%, 女子66.6%であり, 有意差はなかった。

めを断れる」は男子62.7%, 女子66.6%であり, 有意差はなかった。

2. 喫煙に関する好ましい行動・態度・環境の喫煙経験別比較

表3に示すように, 男子の喫煙に関する行動において有意差がみられたのは「たばこを吸っている人が隣りに来たとき他の場所へ移る」の項目であり, 喫煙未経験者の方が高かった。喫煙に関する態度ならびに環境の項目ではすべてに有意差がみられ, いずれも喫煙未経験者の方が有意に高かった。

表4に示すように、女子の喫煙に関する行動において有意差がみられたのは「たばこを吸っている人が隣りに来たとき他の場所へ移る」の項目であり、喫煙未経験者の方が高かった。喫煙に関する態度においてはすべてに有意差がみられ、いずれも喫煙未経験者の方が高かった。喫煙に関する環境の項目では父親以外の項目に有意差が認められ、未経験者の方が高かった。

3. セルフエスティームの性別比較

表5に示すように、「全般」、「運動」、「身体」の尺度に性別に有意差が認められ、いずれも男子の方が高かった。

4. 喫煙に関する行動・態度・環境からみたセルフエスティーム

男子では表6に示すように、最も多くのセルフエスティーム尺度で有意差がみられたのは「禁煙圧力行動①」と「たばこ煙回避行動」であり、前者は「全般」、「友人」、「家族」、「身体」の4尺度において、後者は「全般」、

表3. 喫煙に関する好ましい行動・態度・環境の喫煙経験別比較 (男子)

好ましい行動・態度・環境		未経験者	経験者	合計
		N (%)	N (%)	N (%)
行動	身体に悪いからやめたと言った	136(34.3)	65(31.4)	201(33.3)
	不快だからやめたと言った	87(22.0)	35(16.9)	122(20.2)
	隣りに来ると場所を移る	183(46.2)**	58(28.0)	241(40.0)
態度	20歳の時喫煙していない	165(41.7)**	37(17.9)	202(33.5)
	喫煙者は格好悪い	114(28.8)**	16(7.7)	130(21.6)
	受動喫煙は感じ悪い	249(62.9)**	72(34.8)	321(53.2)
	喫煙の勧めを断れる	292(73.7)**	84(40.6)	376(63.4)
環境	喫煙する父はいない	174(43.9)*	68(32.9)	242(40.1)
	喫煙する母はいない	338(85.4)**	144(69.7)	482(79.9)
	喫煙する兄はいない	370(93.4)**	165(79.7)	535(88.7)
	喫煙する姉はいない	384(97.0)**	181(87.4)	565(93.7)
	喫煙する友達はいない	357(90.2)**	133(64.3)	490(81.3) [†]
対象者の人数		396(100.0)	207(100.0)	603(100.0)

検定：喫煙習慣別に「喫煙に関する好ましい行動・態度・環境」の割合を比較した。

** : P<0.01, * : P<0.05, df=1 (χ²検定)

表4. 喫煙に関する好ましい行動・態度・環境の喫煙経験別比較 (女子)

好ましい行動・態度・環境		未経験者	経験者	合計
		N (%)	N (%)	N (%)
行動	身体に悪いからやめたと言った	265(52.0)	51(42.1)	316(50.1)
	不快だからやめたと言った	163(32.0)	30(24.8)	193(30.6)
	隣りに来ると場所を移る	299(58.6)**	41(33.9)	340(53.9)
態度	20歳の時喫煙していない	264(51.8)**	30(24.8)	294(46.6)
	喫煙者は格好悪い	189(37.1)**	16(13.2)	205(32.5)
	受動喫煙は感じ悪い	413(81.0)**	56(46.3)	469(74.3)
	喫煙の勧めを断れる	373(73.1)**	47(38.8)	420(66.6)
環境	喫煙する父はいない	215(42.2)	44(36.4)	259(41.0)
	喫煙する母はいない	416(81.6)**	79(65.3)	495(78.4)
	喫煙する兄はいない	466(91.4)**	83(68.6)	549(87.0)
	喫煙する姉はいない	485(95.1)**	96(79.3)	581(92.1)
	喫煙する友達はいない	477(93.5)**	84(69.4)	561(88.9)
対象者の人数		510(100.0)	121(100.0)	631(100.0)

検定：喫煙習慣別に「喫煙に関する好ましい行動・態度・環境」の割合を比較した。

** : P<0.01, * : P<0.05, df=1 (χ²検定)

表5. 性別にみたセルフエスティームの平均値と標準偏差

尺度	男子	女子	全体
全般	26.5(5.2)**	25.4(5.3)	25.9(5.3)
友人	18.6(4.0)	18.3(3.5)	18.4(3.8)
学習	15.4(4.0)	15.0(3.8)	15.2(3.9)
家族	21.9(4.0)	22.1(4.0)	22.0(4.0)
運動	16.1(4.7)**	14.6(4.5)	15.3(4.6)
身体	18.9(3.4)**	17.0(3.3)	17.9(3.5)
対象者の人数	603	631	1234

検定: 性別に「セルフエスティームの平均値」を比較した。

** : $P < 0.01$ (t検定)

「学習」, 「家族」, 「身体」の4尺度において好ましい状況である(身体に悪いからやめると言ったことがある, 他の場所へ移る)者のセルフエスティームが高いことが認められた。次いで多かったのは「禁煙圧力行動②」, 「喫煙者に対するイメージ」, 「喫煙の勧誘に対する態度」の3項目であり, それぞれ3つの尺度に有意差が認められ, いずれも好ましい状況である(不快であるからやめてほしいと言ったことがある, 喫煙者は格好が悪い, 喫煙の勧めを断れる)者のセルフエスティームが高かった。

また, 尺度別にみて最も多く有意差がみられたのは「学習」と「家族」であり, 「学習」は「禁煙圧力行動①」と「禁煙圧力行動②」を除く12項目であり, 「家族」では「母の喫煙状況」と「姉妹の喫煙状況」を除いた12項目において差が認められた。そのほとんどが好ましい状況である者のセルフエスティームが高かったが, 「家族」の尺度においては「喫煙する父親がいる」者のセルフエスティームが高く, 「運動」の尺度においては「喫煙経験がある」者と「喫煙する父親がいる」者のセルフエスティームが高く, 他の尺度と逆の関連が認められた。

女子では表7に示すように, 最も多くの尺度で有意差がみられたのは「喫煙の勧誘に対する態度」であり, 「全般」, 「友人」, 「学習」, 「家族」, 「運動」, 「身体」の6尺度すべてに, 好ましい状況である(喫煙の勧めを断れる)者のセルフエスティームが高いことが認められた。次いで多かったのは「禁煙圧力行動②」と「兄弟の喫煙状況」であり, 4尺度に有意

差が認められ, いずれも好ましい状況である(不快だからやめてほしいと言ったことがある, 喫煙する兄弟はいない)者のセルフエスティームが高かった。

また, 尺度別にみて最も多く有意差がみられたのは「家族」であり, 「喫煙経験」, 「一ヶ月間の喫煙状況」, 「禁煙圧力行動②」, 「将来の喫煙意思」, 「喫煙者に対するイメージ」, 「受動喫煙に対する反応」, 「喫煙の勧誘に対する態度」, 「母親の喫煙状況」, 「兄弟の喫煙状況」, 「友達の喫煙状況」の10項目であった。次いで「学習」の尺度であり, 「喫煙経験」, 「喫煙圧力行動②」, 「将来の喫煙意思」, 「喫煙の勧誘に対する態度」, 「父親の喫煙状況」, 「兄弟の喫煙状況」, 「姉妹の喫煙状況」の7項目であった。いずれにおいても好ましい状況である者のセルフエスティームが高かった。「運動」の尺度においては「喫煙経験がある」者のセルフエスティームが高く, 他の尺度と逆の関連が認められた。

5. 非喫煙得点からみたセルフエスティーム
喫煙に関する行動および態度の好ましい状況を示す非喫煙得点(0~9点)からセルフエスティームを比較すると, 表8に示すように, 男子では「全般」, 「学習」, 「家族」の3尺度に有意差がみられ, いずれの尺度においても非喫煙得点が高い者のセルフエスティームが高かった。表9に示すように, 女子では「全般」, 「学習」, 「家族」, 「身体」の4尺度に有意差がみられ, いずれの尺度においても非喫煙得点が高い者のセルフエスティームが高かった。

中学生の喫煙に関する行動・態度・環境とセルフエスティームとの関連

表6. 喫煙に関する行動・態度・環境からみたセルフエスティームの平均値と標準偏差(男子)

喫煙に関する行動・態度・環境		全般	友人	学習	家族	運動	身体	尺度の数
行	喫煙経験がない	26.7(5.0)	18.4(4.1)	16.1(3.9)**	22.6(3.8)**	15.7(4.7)	18.9(3.2)	2
	＃ あり	26.0(5.4)	18.9(3.8)	14.1(3.9)	20.4(4.0)	16.8(4.6)**	18.9(3.6)	1
動	1ヶ月間に喫煙しない	26.6(5.1)	18.6(4.0)	15.6(4.0)**	22.2(3.8)**	16.0(4.7)	18.9(3.3)	2
	＃ した	25.4(5.5)	18.7(4.4)	13.5(3.6)	19.0(4.5)	16.9(4.4)	19.0(4.1)	
度	身体に悪いからやめたと言った	27.2(5.4)*	19.1(4.1)*	15.7(4.0)	22.6(3.8)**	16.3(4.8)	19.3(3.6)*	4
	＃ 言わない	26.1(5.0)	18.3(4.0)	15.3(4.0)	21.5(4.0)	16.0(4.6)	18.7(3.2)	
環	不快だからやめたと言った	27.5(5.3)*	18.7(4.1)	15.7(4.0)	22.7(3.9)*	16.1(5.0)	19.5(3.5)*	3
	＃ 言わない	26.2(5.1)	18.5(4.0)	15.3(4.0)	21.7(4.0)	16.1(4.6)	18.7(3.3)	
境	隣りに来ると場所を移る	27.3(5.1)**	18.8(4.2)	16.1(4.1)**	22.6(4.0)**	16.1(4.9)	19.2(3.4)*	4
	＃ 移らない	26.0(5.1)	18.5(4.0)	15.0(3.9)	21.4(3.9)	16.1(4.5)	18.7(3.3)	
態	20歳の時喫煙していない	26.9(5.4)	18.2(4.4)	16.1(4.2)**	22.5(4.0)**	15.9(5.0)	18.9(3.5)	2
	＃ している	26.2(5.0)	18.8(3.9)	15.1(3.9)	21.6(4.0)	16.1(4.5)	18.9(3.3)	
度	喫煙者は格好悪い	27.6(4.9)**	18.6(4.2)	16.2(4.2)*	23.0(4.0)**	15.5(4.8)	19.0(3.6)	3
	＃ 悪くない	26.2(5.2)	18.6(4.0)	15.2(4.0)	21.6(3.9)	16.2(4.6)	18.9(3.3)	
環	受動喫煙は感じ悪い	26.8(5.3)	18.4(4.2)	15.9(4.1)**	22.6(3.8)**	15.8(4.8)	19.0(3.4)	2
	＃ 悪くない	26.0(5.0)	18.7(3.9)	14.8(3.9)	21.0(4.1)	16.4(4.6)	18.8(3.3)	
境	喫煙の勧めを断れる	27.0(5.2)**	18.6(4.2)	15.9(4.1)**	22.4(3.9)**	16.2(4.7)	19.1(3.3)	3
	＃ 断れない	25.6(5.0)	18.6(3.8)	14.5(3.7)	21.0(3.9)	16.0(4.6)	18.6(3.4)	
行	喫煙する父はいない	26.0(5.4)	18.5(4.1)	15.8(3.9)*	21.4(4.1)	15.4(4.7)	18.6(3.4)	1
	＃ いる	26.8(5.0)	18.7(4.0)	15.1(4.1)	22.2(3.9)*	16.5(4.6)**	19.1(3.3)	2
動	喫煙する母はいない	26.7(5.1)*	18.7(4.0)	15.8(4.1)**	22.0(3.9)	16.1(4.7)	19.0(3.4)	2
	＃ いる	25.6(5.2)	17.9(4.3)	13.9(3.6)	21.4(4.3)	15.9(4.6)	18.4(3.2)	
度	喫煙する兄弟はいない	26.6(5.1)	18.6(4.1)	15.6(4.0)**	22.0(4.0)*	16.0(4.7)	18.9(3.3)	2
	＃ いる	25.7(5.8)	18.4(3.9)	13.7(4.0)	20.9(3.9)	16.9(4.3)	19.0(4.1)	
環	喫煙する姉妹はいない	26.5(5.1)	18.6(4.0)	15.5(4.0)**	21.9(4.0)	16.0(4.7)	18.9(3.3)	1
	＃ いる	25.6(6.4)	19.3(5.0)	12.7(3.1)	21.2(4.2)	17.2(5.5)	19.7(4.4)	
境	喫煙する友達はいない	26.5(5.1)	18.6(4.1)	15.6(4.0)**	22.2(3.9)**	16.1(4.7)	19.0(3.3)	2
	＃ いる	26.3(5.5)	18.5(3.9)	14.4(4.0)	20.3(3.9)	16.1(4.7)	18.6(3.7)	
有意差がみられた項目数		6	1	1 2	1 2	2	3	—

検定:「好ましい状況」と「好ましくない状況」のセルフエスティームの平均値を比較した。

** : P<0.01, * : P<0.05 (t検定)

尺度の数: 有意差がみられた尺度の数

表7. 喫煙に関する行動・態度・環境からみたセルフエスティームの平均値と標準偏差(女子)

喫煙に関する行動・態度・環境		全般	友人	学習	家族	運動	身体	尺度の数
行	喫煙経験がない	25.6(5.2)*	18.3(3.5)	15.3(3.7)**	22.6(3.9)**	14.4(4.4)	17.1(3.3)	3
	＃ あり	24.3(5.7)	18.3(3.7)	14.0(4.1)	20.3(4.1)	15.4(4.7)*	16.6(3.5)	1
動	1ヶ月間に喫煙しない	25.4(5.3)	18.3(3.5)	15.0(3.8)	22.2(4.1)**	14.5(4.4)	17.0(3.3)	1
	＃ した	25.2(4.8)	18.7(3.5)	14.4(4.1)	20.2(3.6)	16.1(5.3)*	16.9(3.7)	1
度	身体に悪いからやめたと言った	25.6(5.3)	18.4(3.5)	15.1(3.6)	22.4(4.1)	14.7(4.6)	17.1(3.3)	0
	＃ 言わない	25.2(5.3)	18.2(3.5)	14.9(4.0)	21.9(4.0)	14.4(4.4)	16.9(3.3)	
環	不快だからやめたと言った	26.3(5.4)**	18.7(3.5)	15.6(3.7)*	22.7(4.0)*	14.7(4.8)	17.6(3.7)**	4
	＃ 言わない	25.0(5.2)	18.1(3.5)	14.8(3.9)	21.9(4.1)	14.5(4.3)	16.7(3.1)	
境	隣りに来ると場所を移る	25.7(5.2)	18.4(3.4)	15.1(3.8)	22.4(4.1)	14.4(4.4)	17.2(3.4)	0
	＃ 移らない	25.1(5.4)	18.1(3.6)	14.9(3.9)	21.9(4.0)	14.8(4.5)	16.8(3.3)	
態	20歳の時喫煙していない	25.8(5.5)	18.4(3.7)	15.6(3.9)**	22.7(4.1)**	14.8(4.7)	17.5(3.3)**	3
	＃ している	25.0(5.1)	18.2(3.4)	14.5(3.6)	21.7(3.9)	14.4(4.3)	16.6(3.3)	
度	喫煙者は格好悪い	25.5(5.5)	18.5(3.9)	15.2(3.8)	22.9(3.9)**	14.9(4.9)	17.4(3.5)	1
	＃ 悪くない	25.3(5.2)	18.2(3.3)	14.9(3.8)	21.8(4.1)	14.4(4.3)	16.8(3.2)	
環	受動喫煙は感じ悪い	25.7(5.2)*	18.4(3.4)	15.2(3.7)	22.5(4.0)**	14.5(4.5)	17.1(3.3)	2
	＃ 悪くない	24.6(5.6)	17.8(3.8)	14.5(3.9)	21.2(4.1)	14.8(4.4)	16.7(3.3)	
境	喫煙の勧めを断れる	26.0(5.3)**	18.6(3.5)**	15.4(3.8)**	22.7(4.1)**	14.8(4.7)*	17.4(3.3)*	6
	＃ 断れない	24.1(5.0)	17.6(3.5)	14.1(3.7)	21.2(3.7)	14.0(4.0)	16.4(3.2)	
行	喫煙する父はいない	26.0(5.1)**	18.2(3.6)	15.4(3.9)*	22.4(4.0)	14.6(4.7)	17.3(3.4)	2
	＃ いる	24.9(5.4)	18.3(3.5)	14.7(3.7)	22.0(4.1)	14.5(4.3)	16.8(3.3)	
動	喫煙する母はいない	25.6(5.2)	18.3(3.4)	15.1(3.7)	22.4(3.9)**	14.6(4.5)	17.1(3.3)	1
	＃ いる	24.6(5.7)	18.1(4.0)	14.6(4.3)	21.3(4.5)	14.5(4.3)	16.6(3.5)	
度	喫煙する兄弟はいない	25.6(5.3)**	18.3(3.5)	15.3(3.8)**	22.3(4.1)**	14.6(4.4)	17.1(3.4)*	4
	＃ いる	23.7(4.6)	18.3(3.5)	13.0(3.1)	20.9(3.9)	15.0(4.8)	16.3(3.0)	
環	喫煙する姉妹はいない	25.5(5.3)	18.3(3.6)	15.2(3.8)**	22.3(4.0)	14.5(4.5)	17.1(3.3)	1
	＃ いる	24.1(5.5)	18.2(3.3)	12.9(3.2)	20.9(4.3)	15.4(4.3)	16.4(3.2)	
境	喫煙する友達はいない	25.4(5.2)	18.2(3.5)	15.1(3.8)	22.3(4.0)**	14.5(4.5)	17.0(3.3)	1
	＃ いる	24.9(6.3)	18.8(3.8)	14.6(4.0)	20.7(4.5)	15.3(4.5)	17.0(3.7)	
有意差がみられた項目数		6	1	7	1 0	3	4	—

検定:「好ましい状況」と「好ましくない状況」のセルフエスティームの平均値を比較した。

** : P<0.01, * : P<0.05 (t検定)

尺度の数: 有意差がみられた尺度の数

表8. 非喫煙得点からみたセルフエスティームの平均値と標準偏差 (男子)

非喫煙得点	例数	全般	友人	学習	家族	運動	身体
高群(7~9点)	103	28.0(5.2)	18.6(4.6)	16.6(4.2)	23.1(4.0)	15.6(5.4)	19.3(3.8)
中群(4~6点)	256	26.5(5.2)	18.5(4.0)	15.9(3.9)	22.6(3.6)	16.0(4.5)	18.9(3.0)
低群(0~3点)	244	25.8(5.0)	18.6(3.9)	14.4(3.8)	20.6(4.0)	16.4(4.5)	18.7(3.4)
合計	603	26.5(5.2)	18.6(4.0)	15.4(4.0)	21.9(4.0)	16.1(4.7)	18.9(3.4)
一元配置分散分析		P<0.05	N.S.	P<0.05	P<0.05	N.S.	N.S.

男子 603 名の非喫煙得点の平均値(標準偏差) = 4.2(2.2)

表9. 非喫煙得点からみたセルフエスティームの平均値と標準偏差 (女子)

非喫煙得点	例数	全般	友人	学習	家族	運動	身体
高群(7~9点)	199	26.2(5.5)	18.8(3.6)	15.5(3.7)	23.1(4.0)	14.6(4.7)	17.5(3.4)
中群(4~6点)	300	25.4(5.0)	18.1(3.2)	15.0(3.8)	22.2(3.9)	14.6(4.4)	17.0(3.3)
低群(0~3点)	132	24.0(5.5)	17.9(3.9)	14.2(4.0)	20.5(4.0)	14.5(4.4)	16.2(3.2)
合計	631	25.4(5.3)	18.3(3.5)	15.0(3.8)	22.1(4.0)	14.6(4.5)	17.0(3.3)
一元配置分散分析		P<0.05	N.S.	P<0.05	P<0.05	N.S.	P<0.05

女子 631 名の非喫煙得点の平均値(標準偏差) = 5.3(2.2)

IV. 考 察

本研究における中学生の喫煙経験者率は、男子では1年生24.5%、2年生35.1%、3年生42.7%、女子では1年生12.8%、2年生22.3%、3年生22.6%であり、女子より男子の方が高かった。この女子より男子の割合が高いことはわが国の喫煙行動の特徴である¹³⁾。平成10年に告示された新中学校学習指導要領¹⁴⁾では、喫煙と健康に関する学習(教育)は3年生で取り上げられている。今回の調査結果では中学3年生男子で42.7%、女子で22.6%が喫煙を経験しており、中学校における喫煙防止の教育効果を考えるならば、経験者の少ない中学1年生で喫煙と健康に関する学習(教育)を行うことを提案したい。村松ら¹⁵⁾は、一度でもたばこを口にすると将来の喫煙の可能性が増すことを指摘しており、喫煙防止教育はできるだけ早期から始めることが大切である。

本研究の中学生の喫煙に関する行動や態度においては女子の方が多くの項目で好ましい状況であることが分かった。この喫煙に関する態度、行動における性差が大きい、すなわち、男子より女子の方が非喫煙に対して「好ましい」あるいは「肯定的である」ことは、先の村松らが行った調査等^{19) 20) 22)}においても

認められている。このように喫煙に対する態度、行動における性差は我が国の社会通念によるところが大であると考えられる。また、喫煙に関する行動・態度を喫煙経験別に比較すると、男子では「禁煙圧力行動①②」を除く10項目に、女子では「禁煙圧力行動①②」と「父親の喫煙状況」を除く9項目において、喫煙未経験の方が好ましい状況にあり、喫煙経験別の比較においてもはっきりと違いが認められている。

JKYBの喫煙行動に関する研究²¹⁾によれば、わが国の青少年の場合、周囲の人々の喫煙行動からの影響が大きいことが確かめられており、両親共に喫煙者である高校生の喫煙者率は両親共に非喫煙者である高校生の約2倍となっている。また、喫煙する兄弟を2人以上持つ高校生男子の59%、女子の32%が喫煙しており、喫煙する兄弟がいない高校生の約3~4倍となっている。友人の影響は大きく、喫煙する友人がいない高校生の喫煙者率は男子5%、女子2%に過ぎないが、喫煙する友人が2人以上いる高校生の喫煙者率は男子50%、女子46%に達すると報告している。同調査²¹⁾は、小学校の段階では両親の影響が強く、年齢が進むにつれて兄弟や友人の影響が強くなることも明らかにしている。

本研究においても、喫煙経験を持つ男子中学生では「喫煙する父親がいる」、「喫煙する

母親がいる」、「喫煙する兄弟がいる」、「喫煙する姉妹がいる」、「喫煙する友達がいる」割合が高く、女子の喫煙経験者においても「喫煙する母親がいる」、「喫煙する兄弟がいる」、「喫煙する姉妹がいる」、「喫煙する友達がいる」割合が高く、喫煙環境の好ましくない（周囲に喫煙者のいる）者に喫煙経験者が多かった。そこで、家族や友人における喫煙者の人数によって本研究の中学生の喫煙経験者率をみてみると、男子では0人が32%、1人が29%、2人が36%、3人以上が43%であり、女子では0人が16%、1人が18%、2人が19%、3人以上が26%であり、男女とも喫煙者が3人以上いる場合の喫煙経験者率が高く、喫煙環境が悪くなるほど（周囲に喫煙者が多くなるほど）喫煙経験者率は高くなることが分かった。

川畑²⁾は、社会学習理論によれば人は自分にとって重要な人物の行動を観察しそれを真似ようとする。もし、青少年の周囲に喫煙する人々が多かったり、たばこの宣伝・広告や、テレビ番組に登場する魅力的な人物がたばこを吸っていたとしたら、青少年はそれを見てたばこを吸うことは社会的に容認された行動であると考えただけではなく、自分がそうした魅力的な人物になるためにはたばこを吸う必要があると考えるようになるとしている。従って、喫煙防止教育の効果を上げるためには、学校だけでなく家庭を含む社会のいくつかの場面で大人が非喫煙を実践して、できる限り非喫煙環境を多くしていくことが大切であると考えられる。

本研究でセルフエスティームの測定に用いた「全般」、「友人」、「学習」、「運動」、「身体」、「家族」の6尺度のうち、「全般」、「運動」、「身体」において性差が認められ、男子の方が高かった。川畑ら^{10) 11) 12)}も小・中学生のセルフエスティームを調べ、男子のセルフエスティームの高いことを指摘している。先に、村松ら²⁴⁾が行った小学生の健康習慣とセルフエスティームの調査においても、「全般」、「友人」、「運動」、「身体」に性差が認められ、男子の方が高かった。このセルフエスティームの性差の要因については今後追究してい

ねばならないと考える。

喫煙に関する行動・態度・環境とセルフエスティームとの関連では男女とも「全般」、「学習」、「家族」、「身体」の尺度において、行動・態度・環境が好ましい状況である者とそうでない者のセルフエスティームに差がみられ、好ましい状況である者の方のセルフエスティームが高かった。特に「学習」と「家族」の尺度においてこの傾向が顕著にみられ、「学習」の尺度では男子は14項目中12項目に、女子は8項目において、「家族」の尺度では男子は14項目中12項目に、女子は10項目において喫煙に関する行動・態度・環境が好ましい状況である者のセルフエスティームが高かった。今後、「学習」、「家族」の尺度と喫煙に関する行動・態度・環境との関連に関わる要因の追究は必要と考える。

「友人」の尺度に関しては、男子の「身体に悪いからやめてと言ったことがある」と女子の「不快だからやめてほしいと言ったことがある」、「喫煙の勧めを断れる」とする者のセルフエスティームが高かったが、それ以外では有意な関連は認められなかった。Emeryら²⁵⁾は、セルフエスティームの「友人」の尺度は喫煙行動との関係が認められないという理由で使用しておらず、川畑ら¹³⁾は、仮説的には喫煙者は自分と同様の行動をとる仲間集団に加わることによって、あるいは喫煙の勧めを受け入れて、そうした仲間集団にはいることによって、彼らなりに友人に関するセルフエスティームのレベルが保たれるので、喫煙行動と「友人」のセルフエスティームレベルとの間に明確な傾向が認められないとしている。本研究においても喫煙経験からみた「友人」の尺度には差はみられなかった。

「運動」の尺度に関しては、男女とも「喫煙経験がある」者の方が「喫煙経験がない」者よりセルフエスティームが高く、「運動」の尺度と「喫煙経験」との間には他の尺度とは異なり逆の関連が認められた。川畑ら¹³⁾も、小・中学生のセルフエスティームは「運動」の尺度に関しては喫煙経験者の方が喫煙未経験者よりも高い傾向にあったと報告している。また、「喫煙する父親がいる」者の方が

「喫煙する父親がいない」者よりセルフエスティームが高かった。今後、この尺度における好ましくない状況の者のセルフエスティームが高いことについての要因究明は必要と考える。

本研究では、喫煙に関する行動・態度・環境の多くの項目で、好ましい状況である者のセルフエスティームが高いことが認められた。また、非喫煙得点が高い者すなわち喫煙に関する行動・態度・環境が好ましい状況である者の「全般」、「学習」、「家族」、「身体」の尺度においてセルフエスティームが高いことが認められた。これらのことから喫煙に関する行動・態度・環境とセルフエスティームとの関連は大きく、青少年の喫煙対策には子どもたちをより多くの好ましい喫煙行動・態度・環境の中で生活させるとともに、セルフエスティームを高める教育を同時に実践することが重要であると言える。セルフエスティームを高めるには学業達成や社会的役割遂行などの成功経験を与え、精神的、感情的自己概念などを形成させるような機会を工夫するような教育指導が必要であることが指摘されており、これらの目的達成のためには保健教育、保健指導の場だけでなく、学校教育の多くの場面さらに家庭においても実施されることが好ましいと考える。

V. 要 約

中学校1・2・3年生の1234名(男子603名, 女子631名)を対象に、喫煙に関する行動・態度・環境とセルフエスティームとの関連を追究し、以下に示す結果を得た。

喫煙に関する行動・態度・環境とセルフエスティームとは、多くの項目と尺度間に関連が認められ、その中でも、男子の「禁煙圧力行動①」と女子の「喫煙の勧誘に対する態度」が顕著であった。男子の「禁煙圧力行動①」では「全般」、「友人」、「家族」、「身体」の4尺度において、好ましい状況である者のセルフエスティームが高く、女子の「喫煙の勧誘に対する態度」では「全般」、「友人」、「学習」、「家族」、「運動」、「身体」の全尺度において、

好ましい状況である者のセルフエスティームが高かった。また、非喫煙得点からセルフエスティームを比較してみると、男子では「全般」、「学習」、「家族」の3尺度に有意差がみられ、女子では「全般」、「学習」、「家族」、「身体」の4尺度に有意差がみられ、いずれの尺度においても非喫煙得点が高い者のセルフエスティームが高いことが認められた。

以上のことより、中学生の喫煙に関する行動・態度・環境とセルフエスティームとの関連は大きく、喫煙に関する行動・態度・環境が好ましい状況である者ほどセルフエスティームが高かった。従って、将来の子どもの非喫煙を考える場合、両親、兄姉、友人等の周囲の非喫煙環境の拡大とセルフエスティームの向上が大切であることが示唆された。

本研究の一部は、平成11年度・12年度文部省科学研究費補助金(基盤研究C(2)課題番号11680184代表村松常司)により実施した。また、研究を進める上で多大な協力を得た愛知教育大学上村美紀さんに深く感謝いたします。

文 献

- 1) 蘭千壽(1992): セルフエスティームの容と教育指導, セルフエスティームの心理学, 自己価値の探求(遠藤辰雄, 井上祥治, 蘭千壽編), 200-226, ナカニシヤ出版, 京都。
- 2) ドナ・クロス(1996): 学校教育におけるライフスキルの形成, 確かなものか, 不確実なものか, 学校保健研究, 38(1), 5-9。
- 3) Emery E. M., McDermott R.J., Holcomb D.H. and Martym P. J. (1993): The Relationship between Youth Substance Use and Area-Specific Self-Esteem, *Journal of School Health*, 63(5), 224-228。
- 4) Harter, S. (1982): The Perceived Competence Scale for Children, *Child Development*, 53, 87-97。
- 5) 川畑徹朗, 中村正和, 大島明, 日山與彦, 丸谷宣子, 皆川興栄, 西岡伸紀, 望月吉勝, 岡島佳樹, 市村国夫, 高橋浩之, 渡辺正樹, 野津有司, 岩井浩一, 岡田加奈子, 高石昌弘(1991): 青少年の喫煙・飲

- 酒行動, Japan Know Your Bodyの結果より, 日本公衆衛生雑誌, 38(12), 885-899.
- 6) 川畑徹朗(1994): 健康的なライフスタイル形成への動機づけ, 学校健康教育とライフスキル, Know Your Bodyプログラム日本語版の開発(JKYB研究会編), 19-26, 亀田ブックサービス, 新潟.
 - 7) 川畑徹朗(1996): 喫煙防止教育, 健康教育とライフスキル学習理論と方法(JKYB研究会編), 29-71, 明治図書, 東京.
 - 8) 川畑徹朗(1996): セルフエスティーム(自尊心)を育てる, 初等教育資料, No.647, 68-71.
 - 9) 川畑徹朗(1997): 主体的に生きる子どもをめざして, セルフエスティーム(健全な自尊心)の形成, 兵庫教育, 49(8), 10-15.
 - 10) 川畑徹朗, 西岡伸紀, 島井哲志(1997): ライフスキルと生活習慣に関する縦断的研究(1), セルフエスティームと生活習慣, 学校保健研究, 39(Suppl.), 274-275.
 - 11) 川畑徹朗, 島井哲志, 西岡伸紀(1998): 小・中学生の喫煙行動とセルフエスティームの関係, 日本公衆衛生雑誌, 45(1), 15-25.
 - 12) 川畑徹朗, 西岡伸紀, 島井哲志(1998): ライフスキルと生活習慣に関する縦断的研究(2), 初年度版と第2年度の調査の比較を中心として, 学校保健研究, 40(Suppl.), 238-239.
 - 13) 厚生省(1993): 喫煙の状況, 喫煙と健康, 喫煙と健康問題に関する報告書, 第2版, 5-13, 保健同人社, 東京.
 - 14) 厚生省(1993): 喫煙とがん, 喫煙と健康, 喫煙と健康問題に関する報告書, 第2版, 47-75, 保健同人社, 東京.
 - 15) 松下覚(1969): Self-imageの研究, Self-esteem scaleの作成, 日本心理学会, 第11回総会発表論文集, 11(Suppl.), 280-281.
 - 16) 文部省(1999): 保健分野, 中学校指導要領, 大蔵省印刷局, 76-79.
 - 17) 村松常司, 村松園江, 原田久美, 村松成司, 堀安高綾, 金子修己, 伊藤章(1993): 喫煙習慣からみた青少年のPassive Smokingに対する反応ならびに自覚症状に関する研究, 愛知教育大学研究報告, 第42輯, 99-112.
 - 18) 村松常司, 高岡泰子, 金子修己, 村松成司, 村松園江, 秋田武, 堀安高綾(1994): 小・中学生の日常生活習慣の知識, 態度, 行動に関する研究, 愛知教育大学研究報告, 第43輯, 95-108.
 - 19) 村松常司, 野村和雄, 北井美奈子, 片岡繁雄, 小川浩, 村松園江, 秋田武, 大門美由紀(1994): 喫煙に対するイメージ・知識・態度及び行動に関する研究, (第1報) 高校生を対象とした調査結果, 学校保健研究, 36(5), 339-349.
 - 20) 村松常司, 村松園江, 秋田武, 北井美奈子, 片岡繁雄, 金子修己, 村松成司(1997): 高校生の喫煙に関する知識・態度・行動からみた喫煙アセスメント, 愛知教育大学研究報告, 第46輯, 63-68.
 - 21) 村松常司, 佐藤和子, 鎌田美千代, 村松園江, 片岡繁雄, 川畑徹朗(2000): 小学生の健康習慣とセルフエスティームに関する研究, 教育医学, 45(4), 832-846.
 - 22) 村松常司, 鎌田美千代, 村松園江, 金子修己, 村松成司, 川畑徹朗, 片岡繁雄(2000): 小学生の喫煙行動・態度とセルフエスティームに関する研究, 愛知教育大学研究報告, 第49輯, 93-101.
 - 23) 尾崎米厚, 箕輪眞澄(1993): わが国の中・高校生の喫煙実態に関する全国調査(第1報)中・高校生の喫煙率, 日本公衆衛生雑誌, 40(1), 39-48.
 - 24) Rosenberg, M.(1965): Society and Adolescent Self-Image, 305-307, Princeton University Press, Princeton.
 - 25) 桜井茂男(1983): 認知されたコンピテンス測定尺度(日本語版)の作成, 教育心理学研究, 31(3), 245-249.
 - 26) 佐藤正二(1992): 自尊心とは, 治療プログラムの開発に当たって背景となった理論的, 経験的モデル, 自尊心の発達と認知行動療法, 子どもの自信・自立・自主性をたかめる(A.W.ポープ他著, 高山巖監訳), 1-8, 岩崎学術出版社, 東京.
 - 27) 佐藤容子(1992): このマニュアルの使い方, 治療プログラムの開発に当たって背景となった理論的, 経験的モデル, 自尊心の発達と認知行動療法, 子どもの自信・自立・自主性をたかめる(A.W.ポープ他著, 高山巖監訳), 39-52, 207-214, 岩崎学術出版社, 東京.
 - 28) 植田誠治(1996): 思春期のセルフエスティームと喫煙・飲酒・薬物使用ならびに将来の喫煙・飲酒・薬物使用意思との関連, 学校保健研究, 38(5), 460-472.

(受付:平成13年12月13日)

(受理:平成13年5月12日)